

4. おわりに

本報告書対象年度の 2018（平成 30）年度は、「学校法人東京電機大学中長期計画～TDU Vision2023」（以下「中長期計画」という）の 5 年目として、建学の精神、教育・研究理念に基づく教育体制の整備等の各種事業が推進された。理工学部には新学系（生命科学系、機械工学系、電子工学系）を設置するとともに工学部第二部（夜間部）に社会人課程（実践知重点課程）を新設したほか、ものづくりセンターの本格運用を開始した。

2017（平成 29）年度の自己点検・評価までは、2016（平成 28）年度の大学認証評価受審結果に基づき、「大学認証評価結果における努力課題への対応」「第 43 群大学分科会報告書にて指摘のあった事項」「各部署で掲げている改善すべき事項」等について、大学全体及び各部署が抱えている課題に対して自己点検・評価を行い、改善を行ってきた。

本報告書の 2018（平成 30）年度は、これまでの自己点検・評価活動の形を踏襲しつつ、2018（平成 30）年度より開始された「第 3 期認証評価基準」を踏まえ、3 つのポリシーおよびアセスメントポリシー等に基づき自己点検・評価を行い、次年度以降の円滑な「自己点検・評価」体制の整備・更なる有効性の強化に向けたスキームの検討を行うことを主眼とした。

第 3 期認証評価においては、内部質保証システムを構築し有効に機能させているかどうか重視される。本学においては、第 2 期認証評価の受審を踏まえ、PDCA 体制の構築を図りその運用を行っているが、より実質的・効果的な内部質保証活動の有用性を高めるため、学長を中心とした全学的な教育マネジメント体制により、点検・評価を行っていく所存である。

国際的に活躍できる高度専門科学技術者に対する需要は急速に高まっており、社会における理工系大学への期待・使命はこれまで以上に大きくなってきている。これからも輝き続ける理工系私立大学を目指し、大学が一体となり、それぞれの役割を認識しつつ、互いに連携、協力することで、さらなる発展を図っていく次第である。

以 上